

# 平成23年度大阪府学力・学習状況調査

## ～町立小・中学校の結果の概要～

この調査の目的は、府内小学6年生、中学3年生の児童生徒の学力・学習状況を把握し、課題の検証を通して改善に生かすためのものです。

### 1. 調査結果の取り扱いについて

- (1)この調査は、序列化や競争を目的とするものではありません。
- (2)この調査で測定できる学力は、特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面です。

### 2. 小・中学校の調査結果の概要

#### 【学力に関して】

##### (1)小学校 平均正答率

	河南町	府公立平均
国語A(主に知識)	90.7	88.1
国語B(主に活用)	68.3	64.9
算数A(主に知識)	67.9	63.4
算数B(主に活用)	53.5	51.2

傾向は、府と同様に国語・算数ともに学習で習得した知識・技能を活用することに課題が見られました。

教科別では、国語において、主に知識・技能を問うA問題ではよい結果となっています。しかしB問題の中の、特に文章に絵図、グラフが混ざっている非連続型テキストから必要な情報を見つける問題で正答率が低くなっています。また、算数においては、A問題の基礎的な計算力(四則計算)は身につけていますが、物の量感を問う問題、図形をもとに考えたり(※右記問題)、グラフから読み取って考える問題で正答率が低くなっています。

##### (2)中学校

町内では1校ですので、平均正答率の数値は公表しません。結果概要については、小学校同様で国語、数学においては知識・技能を活用する力に課題があります。また、国語のB問題は府平均とほぼ同様でありました。その他、英語も含めては府平均を数ポイント上回る結果となりました。

この結果より、**基礎的知識は定着していると評価できます**。しかし、その知識を活用する力に課題がみられます。教科別では、国語において「書くこと」の領域、「関心・意欲・態度」の面で誤答が多く見られます。数学においては、「図形」の領域で、英語においては「記述式」の問題形式で誤答が多く見られました。

**※小中学校を通して、どの教科も無回答率が府の平均よりも下回り、深く考える問題等にも前向きに取り組む意識が高まってきていると評価できます。**

#### 【学習状況に関して】

児童・生徒アンケートの結果は府全体概要とほぼ同様の傾向でした。以下に挙げるのは、町として大切にしていきたい点です。

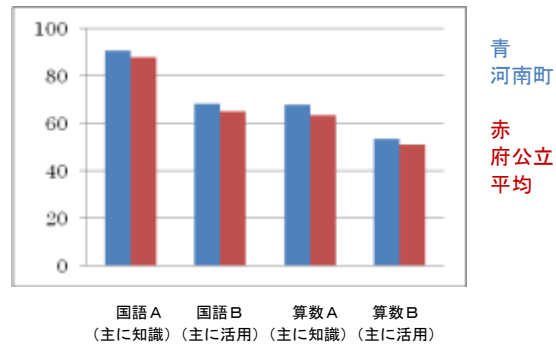
- ・「学校に好きな授業がある」との回答が小学校で9割以上、中学校で8割以上あります。その思いに十分応えていく授業の実現が学校に求められています。
- ・「学校のきまりを守る」との回答が小学校で約8割、中学校では9割をこえていて、府平均と比べても上回っています。しかし「授業中友達とおしゃべりをすることがある」との回答は小・中学校ともに6割以上です。授業中のルールなどを自ら守る意識をさらに高めていくことは引き続き必要です。
- ・「宿題をする」は小・中学校ともに9割以上ですが、「自分で計画を立てて勉強している」との回答が小学校で6割弱、中学校で4割弱にとどまっています。自学自習の力を育成していくことが課題です。

### 3. 課題解決のために

- ・子どもたちの興味関心が高まる魅力ある授業に取り組みます。
- ・自学自習力育成のために、宿題の工夫や具体的なやり方など、学校と家庭が連携して子どもたちへアドバイスしていきます。

※日々の教育活動実施にあたり、今後とも保護者、地域の方々のご理解・ご協力をいただきながら取り組んでいきます。

町内小学校 平均正答率



#### 出題された問題

右の図のように底面が正三角形で、側面が正方形になっている立体があります。アイと長さが同じ辺の数は、アイもふくめて何本あるでしょう。 ※正答は9本

